

平成24年度 四国ブロック

平成25年2月3日 在宅医療連携拠点事業所活動発表会

在宅医療は“まちづくり”



～住み続けたい“まち”をめざして～



在宅医療連携拠点事業所(ホウエツ病院内)



HOUETSUKAI



美馬市・つるぎ町のご紹介



徳島県



美馬市

(平成24年4月1日現在)

人口：32,181人
 高齢者：9,979人
 高齢化率：31%
 一人暮らし高齢者：2,100人
 一人暮らし高齢者率：6.5%
 高齢者のみ世帯：2,600世帯

つるぎ町

(平成24年9月1日現在)

人口：10,786人
 高齢者：4,219人
 高齢化率：39%
 一人暮らし高齢者：1,290人
 一人暮らし高齢者率：12.0%
 高齢者のみ世帯：2,011世帯

ホウエツ病院



- 総病床数65床
 一般病棟37床 (DPC対象27床)
 うち亜急性期病床10床
 回復期リハ病棟28床

- 標榜科
 内科、外科、整形外科
 神経内科、臨床検査科
 婦人科、皮膚科、放射線科
 リハビリテーション科、脳神経外科
 麻酔科、救急科、小児科

わきの里



- 林クリニック
 小規模多機能ホーム
 訪問看護ステーションみやの

芳越会紹介

共生の杜



- 若宮の里
 グループホーム
 小規模多機能ホーム
 なかよし保育所



- 清流の里
 グループホーム



在宅医療連携拠点事業所としての取り組み



①事業所の立ち上げ ⇒ 5名で構成

- ・介護支援専門員1名(専従)
- ・医療ソーシャルワーカー1名(専従)
- ・看護師1名(非常勤)
- ・事務2名(非常勤)



②効率的な医療提供のための多職種連携 ⇒ 施設訪問

訪問日	訪問先	訪問日	訪問先	訪問日	訪問先
7/10	障害者支援施設	8/8	診療所	9/10	老人保健施設
7/17	社会福祉協議会	8/21	診療所	9/12	老人福祉施設
7/17	障害者支援施設	8/22	病院	9/19	老人福祉施設
7/24	老人保健施設	8/22	老人福祉施設	9/21	訪問看護ステーション
8/1	老人保健施設	8/22	ケアハウス	9/25	養護老人ホーム
8/1	障害者支援施設	9/6	社会福祉協議会	9/27	老人福祉施設
8/1	老人保健施設	9/7	社会福祉協議会		

やはり足を運び、顔と顔のつながりを持ちながら、拠点事業所の説明をすることで、現状が把握でき、さらに問題が明確に。

③多職種連携上の課題と解決策の抽出

地域連携の会～絆～に対する働きかけ

平成23年9月

美馬市、つるぎ町管内の医療機関、介護・福祉施設に声かけ

この事業に採択される前からすでに発足されていました

地域連携の会～絆～発足

会長：町立半田病院 沖津 修先生

実行委員：多施設、多職種で構成

事務局：ホウエツ病院内(あくまでも裏方として)



平成25年1月まで

定例会：計6回実施、事例検討会：1回実施、勉強会：3月実施予定

④チーム医療を提供するための情報共有体制の整備 ⇒管理型ホームページの作成(手作り)



- ・地域連携の会～絆～ ホームページ
- ・各医療機関、介護・福祉施設の特徴
- ・ID、パスワードにて、3段階に管理(閲覧内容変えて)
- ・空床管理盛り込む
- ・今後、消防等の機関とも連携
- ・災害時にも利用できるよう、今後発展予定

⑤ 24時間対応の在宅医療提供体制の構築

- ・法人内での体制確保
- ・地域の医療機関実態調査
- ・医師不在時や夜間診療の支援
 - ⇒ 地域(美馬市・つるぎ町)の全ての医療機関に声かけし、課題の抽出、今後の取り組みについて話し合う予定(2月実施予定)



⑥ 在宅医療に関する教育・研修

事業所メンバー向け

- ・林クリニック院長 林 真見子が都道府県リーダー研修に参加
- ・医療福祉連携士 資格取得に挑戦 ⇒ (看護師、社会福祉士)
- ・在宅医療に関する研修会、学会に多数参加

従事者向け

- ・多職種連携勉強会
 - 第1回 「美味しく食べて健康に～嚥下障害基礎講習～
80名参加
 - 第2回 3月実施予定

⑦在宅医療に関する地域住民への普及啓発

・在宅医療講演会

第1回 「在宅介護を考える」 参加者40名

第2回 「在宅での「生きる」を支える」 3月10日実施予定

・地域連携フォーラム

平成24年12月16日(日)実施

参加者 150名

- ・秋山正子先生による講演「在宅ケアの不思議な力
～どんなときでも、命は輝く～」
- ・医療、福祉相談コーナー設置
⇒美馬市、つるぎ町、美馬市・つるぎ町社会福祉協議会協力
- ・体操コーナー、食事相談コーナー設置



・健康力アップ教室(社会福祉協議会主催)参加

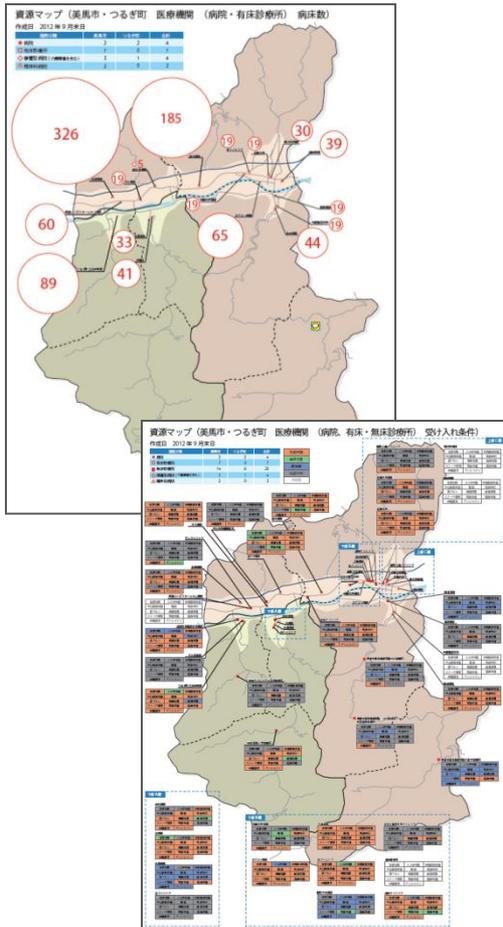
- ・看護師による血圧測定

・福祉フェスティバル(社会福祉協議会主催)参加

- ・介護食の実演・説明、サンプルの提供
- ・食事相談コーナー設置



⑧資源マップ作成(9月末日厚生労働省へ提出済)



- ・**視覚的に**わかりやすく！
地理、施設数、条件などが一目でわかるように。
条件に関しては、色で判別できるように。
- ・カテゴリーは、**段階的に**増やせるように。
基準をそろえ、条件的に検索できるように。
- ・**現場のスタッフ(自分達)**が**知りたい情報**を入れる。
常に現場スタッフの立場に立って作成する。
現場スタッフの必須のツールになるように。

事業を通して見えてきた課題





施設訪問を通して見えてきた課題

- ・医療機関については、在宅医療を含めた開業医の先生方との役割分担が必要
 - ・介護施設については、入所しなくてもよい方の入所前の振り分け必要
 - ・障害者支援施設については、市町村単位ではなく、県単位での今後の検討が必要
 - ・様々な情報はほしいが、現場は本当に常に忙しい
- ・民間病院である当院が拠点事業所であることに納得していない方も多い。「なぜ医師会じゃないのか！？
なぜ市町村じゃないのか？
なぜホウエツ病院が！！！？」
事業内容を説明し、理解して頂ければ頂くほど
この声は更に大きくなり・・・





資源マップ作成を通して見えてきた課題

・病床数や施設のベット数、訪問事業所の数はかなり満たされている。しかし、美馬市・つるぎ町では、重症者(人工呼吸器、気管切開等)の受け入れ可能な医療機関が限られている。また、施設・通所系では看護師の配置に依存し、医療度の高い方(酸素、インスリン等)の受け入れに相談が必要。

(今後資源マップを作成する課題として……)

- ・具体的な機能別での表示が必要
- ・今後、把握する資源を更に増やし、それをリアルタイムに資源マップに落とし込むことで、災害時に利用できるのではないかな？
- ・資源マップはどこで作られ、どこで管理されるべきかな？





この事業全体を通して見えてきた課題

- ・「在宅医療の推進」をテーマに始めた事業だが、
医療だけでなくそれ以外の課題が山積み
- ・アンケート調査のみでは、十分な資源マップの作成はできない
- ・多職種連携・・・
地域の方を支援するには、さまざまな連携の形があるはず
調整機関の力量に左右される
- ・地域包括ケアの推進が必要
- ・「在宅医療連携拠点事業所」・・・
本当にこのネーミングでいいのか？

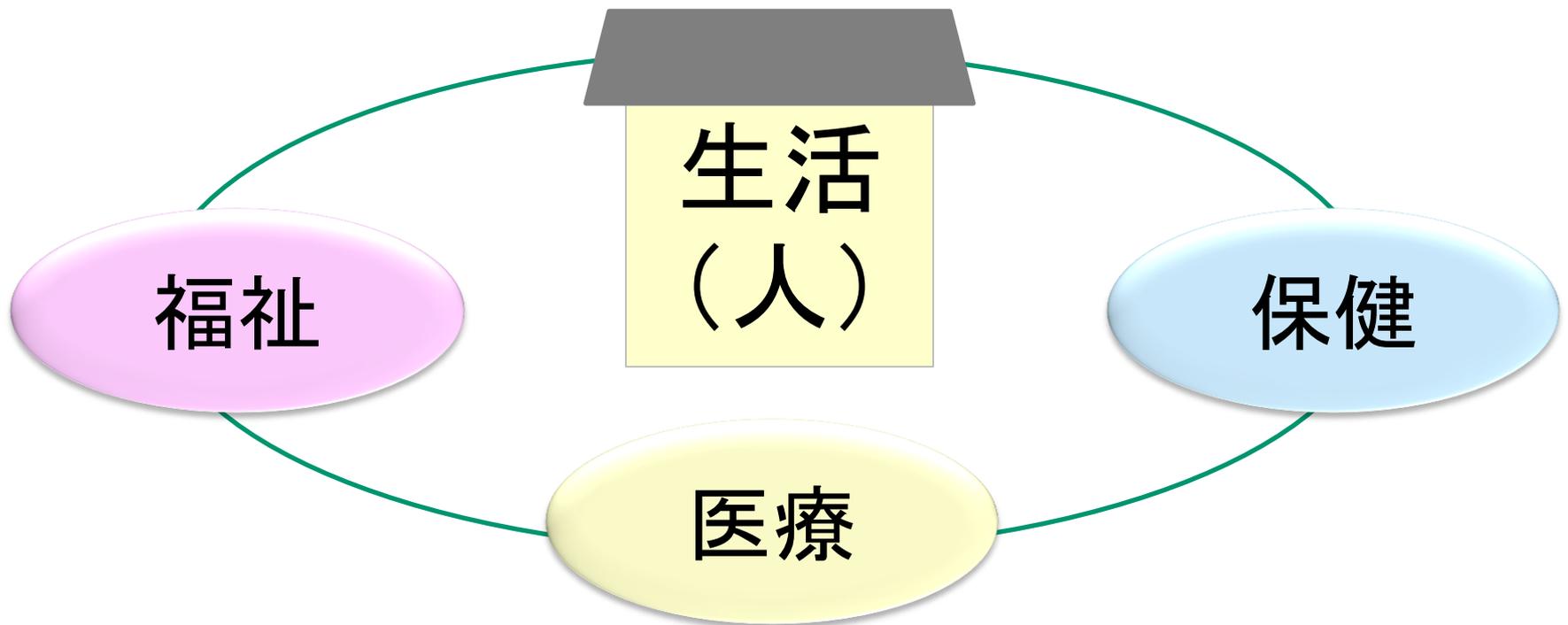


そもそも在宅医療とは何か・・・



在宅医療とは≠在宅で「医療」を受けるということ

在宅医療とは=在宅での「生活」を支援するための一手段



地域の人々を支えるにはそれぞれの垣根を越えて

24時間体制で**生活**を支えるしかない



なぜ、足並みが揃わないのか・・・



中立的な立場で調整する調整役がない

生活
住まい

山間部の高齢者世帯が多い地域性
施設は常に満床状態

福祉

調整役

どこがすべきか...

保健

今後在宅を支えるためには
保健が重要

医療

福祉は医療と連携をとりたい。
しかし...

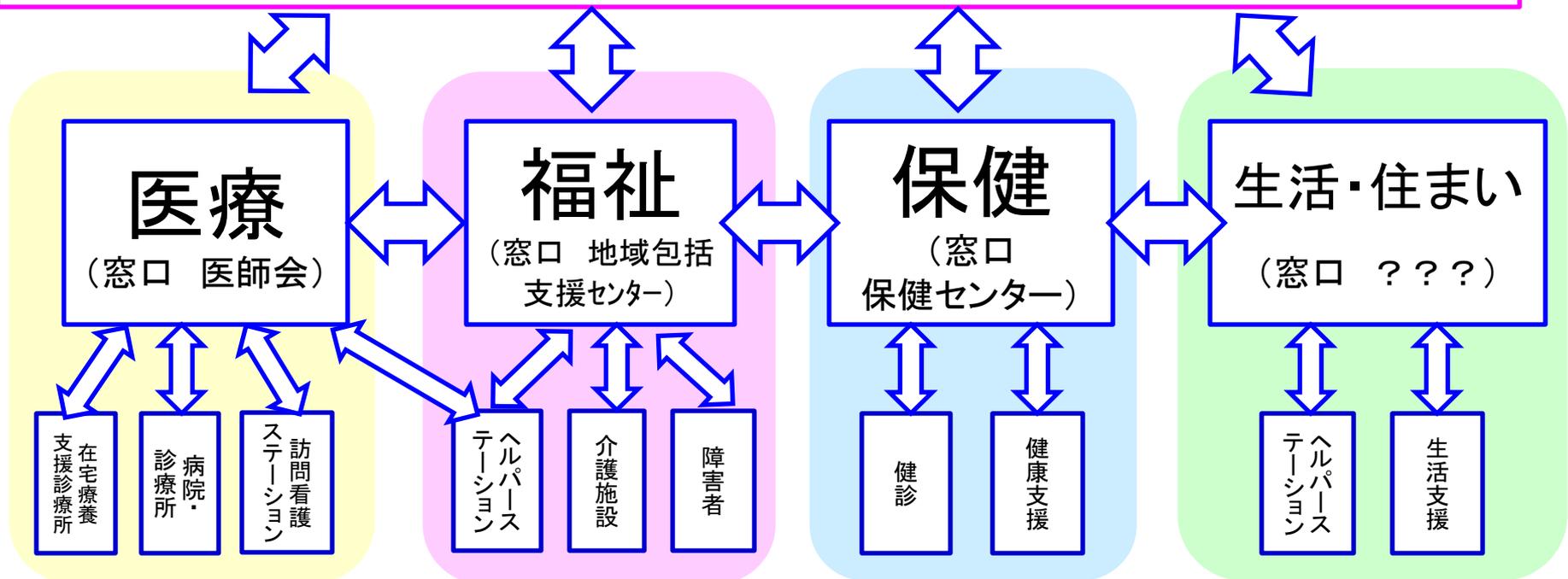
医療を中立的な立場で調整できるのは...



提案①やはり「地域包括ケアシステム」

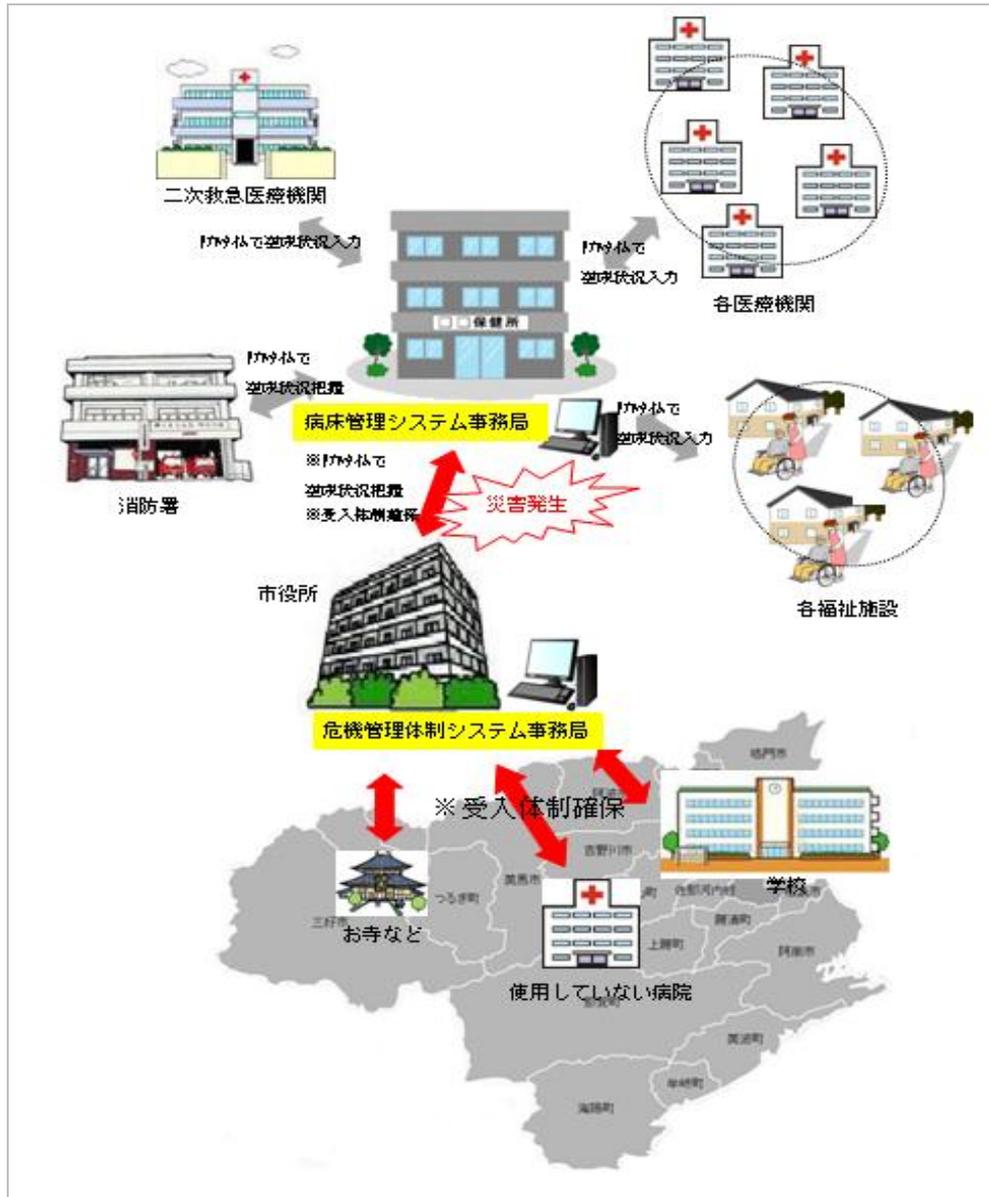
困った時の駆け込み寺相談センター(仮称)設置

総合窓口(市町村) = 在宅医療連携拠点事業所
地域コーディネーター(調整役)



すべては繋がっている...

提案②住民情報リアルタイムな把握



平成23年3月
美馬市長殿にご提案

こども、おとなが “一生住み続けたいまちづくり”を めざして



私達は・・・

今後、さまざまな分野の方々が協力し合い、
住民の方をどのような状況でもサポートできる体制を作ることで、
安心して、一生住み続けたいまちづくりを目指したいと考えます

ご清聴ありがとうございました

グランプリ



ゆるキャラグランプリ2012
第1位 バリィさん(愛媛県)

ゆるキャラグランプリ2012

第68位 うだつまる(徳島県美馬市)